キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会ニューズレターNo.16

発行責任者 黒田裕子　　編集 武内・田村・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内
TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

分り合えること、合えないこと

神戸新聞論説副委員長　三上喜美男

自分のことを人に伝えるのは、なかなか難しい。相手が同じような体験をしているとは限らないからである。
がんの話となると、なおさらだろう。
「がんは死の病」という言葉が、最近も知人との会話で出た。その人がそう思っているというのではない。「まだそう思っている人が多いでしょうね」という話であった。
がんのことを口にするのは今でも怖い。
ただ、がん患者ががんを語るのに躊躇するのは、恐怖心のせいばかりではない。周囲の反応に違和感を覚えるからではないか。
話したとしても、どこまで分かってくれるだろうか。そうした懸念を抱えているのが患者心理というものであろう。私自身の体験からも、そう思う。
相手の反応が不自然に感じられる。そんなことがままあった。聞いてはみたが、どう対応していいか、相手は困惑しているのだろう。戸惑った結果として、親身な空気を保ちながらその場を無難にやり過ごそうとする。
だからといって、相手が悪いとばかりはいえない。逆に気を使わせて悪いなと思う。人間は自分自身が体験していないことについては、なかなか思いが及ばないものだ。
「○○は会社のがんだ」などという言い方を、今でも時おり耳にする。がん患者やがん体験者なら、そんなことは絶対にいわない。思っても言わないのではなく、そんな比喩を口にしようとは考えない。
言葉狩りをしようというのではない。ものごとを自分の恐れや痛みとしてとらえれば、ひと事のような発言は決してできないはずだといいたい。言葉一つでその人の立ち位置が分かる気がする。
体験を共有していないことの溝は結構、深いのである。

一方で、最近はがんを公表する人が増えてきた。「カミングアウト」という言葉がある。「あの人は○○がんだとカミングアウトした」というように使われる。
身の回りでも、がんと診断された当初からカミングアウトした人がいる。病名を公表した後は、折りに触れ、治療の経過を報告してくれたりする。
しかし、無理解や無関心、偏見がなくなったわけではない。
ようやく社会復帰したのに、自分の周りに見えない壁を実感する人は少なくないようだ。
がん患者に限らない。心を患った知人が言っていた。「分かってもらわなくてもいい。大丈夫と声をかけてくれるだけでもうれしいのだが」。声をかけてくれれば、嫌いだった相手でも「いい人」と思えてくるから不思議だと、笑っていた。

声をかけるということは、相手に寄り添おうという心の表れだろう。無視されるよりははるかによい。「いい人」と知人が感じた直感は、あながち間違いではあるまい。

どこまで寄り添うかは、二人のきずなの深さが決めるだろう。声をかけただけで終わるかもしれない。それでも、声をかけることが患者の支えになることは分かってほしい。

できるなら1回きりでなく、声をかけ続けてほしいと思う。続けているうちに分かってくることもある。壁は両側から乗り越える努力をしないと、なかなか克服できないものだ。両側から切り崩すと、案外、もろいものかもしれない。

ひょうごがん患者連絡会を立ち上げるころ、私は神戸新聞社の論説委員をしていた。連絡会が産声を上げ、活動が始まったころは、文化生活部というセクションの部長に就任していた。

がん治療などの医療情報はいくらあってもいい。情報をきめ細かく、分厚く、新聞の読者に提供できないか。そんな議論を編集局で重ね、医療取材の専任チームを部内に発足させた。そして1昨年から「ひょうごの医療」という1ページ特集を2カ月に1度、掲載し始めた。

この紙面は、乳がんなら乳がん、肺がんなら肺がんというように毎回一つのテーマを設定し、県内の医療機関で行われる有望な治療法を紹介する。患者の体験を軸にした構成で読みやすさを心がけ、専門医のインタビューや関係病院の一覧なども載せている。

紙面づくりの中心を担った当時のデスクは、大腸をほぼ全て摘出する大手術を経験した患者であった。この企画は昨年、ファイザー医学記事賞をいただいたが、私を含め患者体験のある記者たちの思いが伝わったのかもしれないと、ひそかに自負している。

その後、私は部を離れ、昨年春に論説委員室に戻った。大腸摘出患者である担当デスクも、今は別の仕事を受け持ち、現在の「ひょうごの医療」はまた新しい顔ぶれでつくっている。

担当記者たちの医療取材の経験には差がある。知識にも差がある。感性も一様ではない。それでも、みんな地道に患者に会い、医師に会い、日夜奮闘しているのが分かる。

新聞記者は言葉をつづって何かを世に伝えるのが仕事だ。医療の「今」を誰よりも患者に的確に送り届ける。その紙面を通して、患者が必要とする情報とは何かを、医療関係者にも分かってもらう。医療ジャーナリズムにはそうした役割があると信じる。

「患者目線」という医療報道の遺伝子は絶対に守り続けてほしい。後輩たちがつくる紙面を見ながら、そう願う。

さて、今の私の主な仕事は、1面コラム「正平調」を書くことである。朝日は「天声人語」、読売は「編集手帳」、毎日は「余禄」。神戸新聞のコラムは「せいへいちょう」と読む。政治、経済、事件・事故、災害、医療、文化、芸能、天気…。あらゆることがテーマになる。その日にいきなり書くことが多く、毎日気が休まらない。

別の論説委員が書く社説をチェックするデスク業務もある。作業が深夜に及ぶことは珍しくない。血液がんの一種である悪性リンパ腫を発症してから20年ほどになるが、今が一番、体にきつい。だが、私たちの業界も省力化で人出が足りない。かつかつの人数なのだ。

実は、職場に2人いるデスクのもう一人も、がん患者である。昨年手術し、経過は順調だが、リハビリと経過観察を続けている。

病気も部位も私とは異なる。それでも相身互いというか、声に出さずともいたわり合いながら仕事をこなす。無理をしながらも、相方が無理をしすぎないようにと、無言の配慮をし合う。患者同士でなかったら、とても望めない関係であろう。

体験を共有していない溝は深い。同時に、体験を共有している場合のきずなはとても強い。だから連絡会の活動が、がんと向き合う患者一人一人を結ぶ強い輪になればいいと思う。そのきずなが世の中に大きく大きく広がればいいと思う。

（写真は私の職場の机。棋士の内藤國雄さんからいただいた「千里一曲」の扇子を飾っている。）

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します

（2011 年２、３月 活動分）

事　務　局

2011 年２月 17 日（木）：日本ホスピス・在宅ケア研究会理事長 だいとう循環器クリニック院長 大頭信義医師をお招きして第 6 回がん医療研修公開講座を開き、引続き第 10 回運営委員会を開催しました。

（１）がん医療公開講座は「在宅医療の現状について」と題して講演をお願いした。

講演では、①急性期療養における“入院期間 3 か月抑制策”及び“DPC 制度”からくる問題、 ②“終末期を在宅で過ごす上での問題”などについて話をして頂いた。

①からは新たに“再発がん難民”、“複数疾病難民”が、②からは“終末期がん難民”、“終末期介護難民”が発生する。制度や家族構成などの療養環境が変化すれば、そこには必ず新たな問題が発生する。患者会が解決に向けて努力しなければならない課題である。

（２）運営委員会の主な決定事項は次の通りである。

１）2 月 25 日開催の“ひょうご対がん戦略会議”での問題案件として、①前述の問題への対応策、②「地域連携クリティカルパス」の早期運用開始、③がん対策推進計画の進捗概要を県民向けに広報することなどを提起する。

２）ひょうごがん患者連絡会の３～５月の活動計画を決定した。

・３月 17 日（木）：来年度活動計画についてのフリートーキング

・4 月 21 日（木）：兵庫県当局とのがん対策推進についての打合せ

・5 月 19 日（木）：第 3 回ひょうごがん患者連絡会定期総会

2011 年３月 17 日（木）：第 4 回フリートーキング会と第 11 回運営委員会を開催しました。

（１）フリートーキング会で、今年度の活動を評価した上で来年度活動計画策定への取組み方を討議し確認した。主な決定事項は次の通り。

１）4 月 21 日開催の兵庫県当局との打合せにおいて、がん対策推進上の問題点への取組みを協議し来年度活動計画案作成に反映させる。

２）新たに兵庫県がん対策推進条例の必要性について調査研究を行い、必要性が確認されれば制定に向けた活動を行う。

（２）来年度から、ひょうごがん患者連絡会のニューズレターの内容を“ より幅広いもの ”にすると同時に“ 楽しく読めるもの ”にすることを目指して、従来の各団体等会員の“ 持ち回り執筆文 ”に“ 持ち回り寄稿文 ”を組み合わせたものとする。

がん検診受診啓発活動への講師派遣

・1 月 26 日（水）

「尼崎市がん対策推進員育成講座」：ゆずりは明石 大西忍氏、ＲＦＬ 長野心美氏

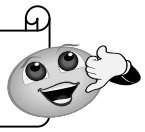
・2 月 26 日（土）

「兵庫県がん検診推進フォーラム」（県・がん検診受診推進協定企業共催）：田村美生夫事務局長

・3 月 11 日（金）

「赤穂市がん対策推進員研修会」：乳がん 川野紀子氏、肝炎友の会 越智敬志氏

ひょうご がん患者連絡会行事予定（2011 年４月～６月）



日　時	行事・会費	テ　ー　マ・講　師	場　所
4 月 21 日（木） 18：00～20：00	第２回 兵庫県当局との話合い	2010 年度活動評価と 2011 年度の取組みについて	兵庫県民会館 ３０２号室
20：00～21：30	第 12 回運営委員会	第 3 回定期総会ほか	
５月 19 日（木） 18：00～20：00	第３回ひょうご がん 患者連絡会定期総会	（定期総会議案書による）	神戸クリスタルタワー４階 （予定）
20：00～20：30	第 1 回運営委員会	（定期総会決議による）	
６月 16 日（木） 18：00～20：00	第 1 回 フリートーキング会	―――――――	神戸クリスタルタワー４階 （予定）
20：00～20：30	第２回運営委員会	―――――――	

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、５団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行しています。

ニューズレターの第 1,2 面は各会員の持ちまわり執筆とし、創刊以来奇数月に発行しております。この第 16 号は神戸新聞の三上喜美男氏に執筆をお願いしました。この号で会員の持ち回り執筆が一巡しましたので、来年度からは“より幅広い内容”で、かつ“楽しく読める内容”を目指して寄稿文も組み合わせていくことにしております。

各団体の会員のみなさま、および行政、医療、報道関係のみなさまからご意見などお聞かせいただきたく、よろしくお願いします。

編集後記

事務局　田村美生夫

「ひょうごがん患者連絡会」設立に当たって、準備段階から有益なアドバイスをして下さった三上喜美男氏から、ことわざ「千里一曲」を添えて「分り合えること、合えないこと」と題する投稿文をいただきました。

わたし達ひょうごがん患者連絡会は、多くのがん患者・患者団体とともに 体験の共有者として理解しあい連帯を図っていかなければとの思いを新たにしております。

三上様には引続きご支援とご指導をいただきたくお願いして、編集後記といたします。

[ニューズレターNo.16 差込みページ]

がん患者連絡会加入団体等の関係公開講座等の行事予定（2011 年４月～６月）

日時・場所	主催(TEL)・会費	テーマ・主な内容・講師
４月３日（日） 13：00～16：00 京都市男女共同参画ｾﾝﾀｰ	リレーフォーライフ関西実行委 (0797-57-0007)10～20 時 無料（要申込）	「心のバリアフリー」ﾁｬﾘﾃｨｰｺﾝｻｰﾄ RMS 小山音楽教室のみなさん 寄付は東日本大震災被災のがん患者支援に贈られます
４月８日（土） 14：00～16：30 兵庫県民会館　１２０２室	ゆずりは公開講座 (078-976-5050) 一般 800 円、学生 無料	「楽しい日々と向き合いませんか・・・・」 宝塚市立病院緩和ケア病棟 チャプレン　沼野尚美 氏
４月 10 日（月） 14：00～16：00 神戸大学病院 神緑会館	神大病院緩和ｹｱﾁｰﾑ・がん相談室 （078-382-5830） 無料（要申込）	第 4 回緩和ケアサロン ・プラネタリウム鑑賞 ・参加者交流会　・情報・相談コーナー
６月 11 日（土） 14：00～16：30 兵庫県民会館　１２０２室	ゆずりは公開講座 (078-976-5050) 一般 800 円、学生 無料	「がんと栄養」 小野クリニック 管理栄養士　小野裕美 氏

がん患者連絡会加入団体等の「がんサロン」予定（2011 年４月～６月）

主催(TEL)・会費・場所	テーマ・主な内容・講師	日　　時
ゆずりは明石「明石話そう会」 （078-911-6761 草野） 無料 兵庫県立がんセンター 1 階	患者、家族の悩みを分ち合い 前向いて生きる寄り添える会を 目指しています （時間内であれば参加ご自由です）	・ ４月４日及び 18 日（月） ・ ５月２日及び 23 日（月） ・ ６月６日及び 20 日（月） 10：00～12：00
ゆずりは明石「明石楽しもう会」 （078-911-6761 草野） 無料 明石市立保健センター３階	5 月：歌声カフェ “ Tea Time ”のみなさん 6 月：ラフターヨガ 植田弘一 氏	・ ５月 11 日（水） ・ ６月８日（水） 10：00～12：00
ゆずりは明石「がん相談」 （078-911-6761 草野） 無料 明石市立保健センター1 階	「がん」についての無料相談 相談員：ゆずりは明石会員の 看護師・保健師・がん体験者	・ ４月 26 日（火） ・ ５月 24 日（火） ・ ６月 28 日（火） 13：00～16：00
ゆずりは「がんサロン」 （078-976-5050） 500 円（茶菓子代） 地下鉄伊川谷駅構内伊川谷工房	お茶を飲みながら 病や悩みについて自由に語り合います （時間内であれば参加ご自由です）	・ ４月 19 日（火） ・ ５月 10 日（火) ・ ６月 14 日（火） 13：30～15：30
神戸医療ｾﾝﾀｰ「こすもすの会」 （078-791-0111、内線 460） 無料 神戸医療ｾﾝﾀｰ「がん相談支援室」	・苦しみや悩みなどの気持を 自由に語り合い支え合いましょう ・情報の交換をして 知識を高め合いましょう	・ ４月 20 日（水） ・ ５月 18 日（水） ・ ６月 15 日（水） 14：00～16：00